

編集室

* 今月号の小特集は「高臨場感映像・音響が創り出す新たなユーザ体験の評価技術」と題し、高臨場感映像・音響システム／サービスの将来像と、評価技術の最新研究動向について幅広く解説して頂きました。

* のろしなどに始まった遠方にいる人との通信は、音声や映像を伝えるだけでなく五感全てを通信要素として扱うことで、遠方の状況をあたかもそこにいるかのごとく伝え、そして体験できるようになってきました。それでもなお残る、“現実”と“通信の作り出す現実”とのギャップを埋めるため、現在も精力的に映像・音響等の技術や、それらの評価技術について研究が進められています。

* 映画マトリックスの中で、「現実としか思えない夢を見たことはあるか？ その夢が覚めなかつたら君は夢と現実を区別できるか？」といったセリフがあります。夢で見た映像は実際には体験していないものですが、脳が“体験した”という感覚になれば“体験した”ことになり、しかも現実と区別がつかないような完璧な夢ならば、それは夢ではなく現実の体験として残る可能性があります。同じ

ように高臨場感通信システムを通して見た光景は実際には体験していないものでありますが、現実と区別がつかないように完璧な情報を伝えられるならば、それは通信システムを通じた体験ではなく現実の体験として得ることができるようになるでしょう。更に、遠方からの情報の忠実な再現だけでなく、“超臨場感”技術によって人の持つ直感や潜在意識を刺激する情報を与えることで“体験”は現実の枠を超え、人間の未知なる能力を引き出す可能性を感じます。

* 本小特集の編集にあたっては広島工業大学の林孝典氏の御指導を頂きつつ企画を進めてまいりましたが、最新の映像・音響技術とともにそれらを支えるユーザ体験評価技術についてまとめてお届けできるまたとない機会となりました。今後の情報通信の発展を支える上で映像・音響システムのユーザ体験技術はなくてはならない役割を果たしますので、幅広く皆様に楽しんで頂きたいと思っています。是非この小特集を御一読下さい。

(編集特別幹事 菊間一宏)

複写される方へ

一般社団法人電子情報通信学会は、本誌掲載著作物の複写に関する権利を一般社団法人学術著作権協会に委託しております。本誌に掲載された著作物の複写を御希望の方は、(社)学術著作権協会より許諾を受けて下さい。ただし、企業等法人による社内利用目的の複写については、当該企業等法人が公益社団法人日本複製権センター((社)学術著作権協会が社内利用目的複写に関する権利を再委託している団体)と包括複写許諾契約を締結している場合にあっては、その必要はございません。(社外頒布目的の複写については、許諾が必要です。)

<権利委託先> 一般社団法人学術著作権協会

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル 3F FAX [03] 3475-5619 E-mail: info@jaacc.jp

複写以外の許諾(著作物の引用、転載、翻訳等)に関しては、(社)学術著作権協会に委託致しておりません。直接、下記へお問い合わせ下さい。

<問合せ先> 一般社団法人電子情報通信学会

〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館内 TEL [03] 3433-6691 FAX [03] 3433-6659